

普及活動情勢報告

情勢報告（平成29年9月分）

須崎農業振興センター高南農業改良普及所

ショウガの安定生産に向けて ～JA四万十生姜部会研修会の開催～



研修会の様子

9月8日、JA四万十生姜部会研修会が、四万十農協営農センターで開催され、生産者8名が参加しました。

研修会では、ショウガ掘り取り機の開発について検討した後、労務管理について研修を行いました。ショウガ掘り取り機については、親芋まで掘り取りできる機械の開発を要望する声がありました。また、社会保険労務士から労働条件の明示や賃金の支払い、労災保険、解雇などの労務管理についての説明を行い、参加者は熱心に聴いていました。

今後も、JA四万十と連携し、ショウガ農家の労働力確保に向けて支援を行っていきます。

十和の伝統野菜を次世代の子供たちへつなぐ ～昭和小学校で出前授業を開催～



種まき後のトンネル作り

9月7日、大道地区の昔野菜栽培農家3人と普及所、JA高知はた十和支所、関係機関の職員が、四万十町立昭和小学校の3、4年生の計11人を対象に大道地区に残る昔野菜の出前授業を行いました。この出前授業は、昨年度から小学校と連携して取り組んでおり、今回は小学校で育てた昔野菜（昔大根、昔カブ、昔高菜）の種を使い、種まき体験を行いました。普及所職員が授業内容を説明した後、2班に分かれて、うね作りから種まき、トンネルづくりまでの体験をしてもらいました。

小学生からは、「シートに穴あけるのが楽しかった」「収穫が楽しみ」といった多くの感想を聞くことができました。

普及所は同校と連携し、1月には収穫と料理づくりを行う予定です。

四万十町の農地の利用を考える ～集落営農、大規模稲作農家等との意見交換会の開催～



意見交換会の様子

8月29日、農山村地域経済研究所の楠本雅弘所長を招き、四万十町管内の集落営農組織、大規模水稻農家及び関係機関の43名が参加し、今後の農地利用に向けた意見交換会を開催しました。

普及所は、意見交換会の企画、立案や四万十町における農業や農地、集落営農組織の現状等について情報提供しました。

会では「今後の担い手育成が急務である。」「集落内の人から農地管理を頼まれると断れない。」など意見が出てきました。

普及所は、今後も集落営農組織や農家の意見をもとに、関係機関と連携しながら四万十町の農地が維持できる仕組みづくりを支援していきます。

ニラの省力化、雇用対策に向けて ～JA四万十二ラ部会先進地事例調査を実施～



ニラの生産法人も視察

9月5日、JA四万十二ラ部会と関係機関を合わせた19名が、北海道知内町へニラの自動調製包装施設と産地の生産状況調査を行いました。

出荷場の施設内にはニラの計量結束機が8台設置されており、参加者は調製されたニラが規定重量に計量結束し、包装、箱詰めされるまでの動作に興味深く真剣に見ていました。特に、施設が整備された後の雇用状況の変化やニラの歩留まりについて関心が高く、多くの質問が聞かれました。

産地の生産量を維持していく上で、作業の省力化は重要な課題となっています。今回の調査結果を部会で共有し、省力化の取り組みに生かしていきます。

冬野菜の準備に向けて ～JA高知はた十和支所・大正支所ナバナ栽培講習会



栽培講習会の様子

8月10日、21日にJA高知はた十和・大正支所でナバナの栽培講習会を開催し、40名の生産者が参加しました。

幡多地区営農改善協議会で作成した、ナバナ栽培マニュアルをもとに北幡営農センターから、品種特性や収穫時の注意事項等の栽培全般の話の後、普及所からは根こぶ病対策と農薬安全使用に対する注意喚起を行いました。

生産者からは、頂花の収穫時期や石灰窒素の使用法等についての質問が寄せられました。

ナバナは北幡地域の冬場の主要な露地野菜として定着していますので、今後とも北幡営農センターと共に栽培指導を行っていき産地の維持に取り組んでいきます。